

島根のコウモリ

島根県立三瓶自然館

大畑 純二

島根県でこれまでに生息が確認されているコウモリ類は、キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*・コキクガシラコウモリ *R. cornutus*・モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus*・ノレンコウモリ *M. nattereri*・アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*・ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus*・テングコウモリ *Murina leucogaster*・コテングコウモリ *Murina ussuriensis* の8種である。

隠岐島前でヒナコウモリ *Vespertilio superans* の採集記録がある（木村標本）が、生息していたものか迷ってきたものか不明である。また、コウライホリカワコウモリ *Eptesicus serotinus pallens* の採集記録がある（阿部, 1952）が、標本は焼失し詳細なデータも残っていないという。これについて前田（1984）は、本種または本属かも疑問としている。

従って、現在、県内に生息していることが確実なのは8種のみである。

ただし、ノレンコウモリについては、初確認は1988年で、その後休息に用いていたトンネルが改修使用されるようになったため、1998年以後は見られていない。桑原（2001）により瑞穂町の廃坑で「ノレンコウモリ」の写真が撮影されているが、筆者が見たところでは写真はノレンコウモリでなくモモジロコウモリに見える。

最近、広島市内でオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の繁殖コロニーが発見されたが、島根県ではまだ本種の日撃記録はない。

また、森林の樹洞を休息場所にしておりアブラコウモリ *Pipistrellus endoi*・フジホオヒゲコウモリ *Myotis fujiensis*（本種をヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* とする見方もある）・クロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinosus* が広島県芸北町で採集確認されており、これらについては今後島根県側でも見つかる可能性がある。

コウモリ類には、ユビナガコウモリのように大群でコロニーを形成する種もあるが、ルースト（休息場所）の環境条件は限られており、ルーストとなっている洞窟が失われると、数千、数万頭ものコロニーが一度に失われてしまうことも起こりうる。このことが、県内にまだ数多く生息しているユビナガコウモリやキクガシラコウモリなどが「しまねレッドデータブック」に取り上げられている理由となっている。

自然の洞穴の少ない島根県で洞穴性コウモリの研究を行うことは、大規模な鍾乳洞の多い石灰岩地帯に比べて不利であるように思われるかもしれないが、天井の低い廃坑が豊富にある島根県では標識個体の追跡が比較的容易に行えるという利点がある。

ユビナガコウモリの標識調査では、県内における生息状況がおぼろげながら見えてきた。また、秋吉台と帝釈峠で標識されたユビナガコウモリが島根県に飛来したのを確認しており、石見銀山廃坑で標識した個体が広島県大野町の廃坑で確認されている。

江津市内の廃坑のキクガシラコウモリの場合、1983年に初めて数えた時の冬眠個体数は82頭だったが、その後、増減を繰り返しながら、2003年1月には過去最多数の260頭を数え、2004年1月には172頭であった。